



平成28年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年7月25日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社篠崎屋

コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiva.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長 兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 平成28年8月5日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年9月期第3四半期の業績(平成27年10月1日～平成28年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年9月期第3四半期	3,143	△9.8	△5	—	△4	—	△25	—
27年9月期第3四半期	3,483	△9.2	116	△44.7	115	△44.8	98	△43.0

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年9月期第3四半期	△1.81	—
27年9月期第3四半期	6.95	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭		
28年9月期第3四半期	1,671	87.95	1,245	74.5		
27年9月期	1,693	92.30	1,312	77.5		

(参考)自己資本 28年9月期第3四半期 1,245百万円 27年9月期 1,312百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年9月期	—	0.00	—	2.50	2.50
28年9月期	—	0.00	—	—	—
28年9月期(予想)	—	—	—	1.00	1.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注)業績予想の策定に伴い、その内容等を勘案し配当予想を決定いたしました。

3. 平成28年9月期の業績予想(平成27年10月1日～平成28年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,045	△7.6	△40	—	△39	—	△64	—	△4.57

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため予想の開示は行っておりませんが、現時点における入手可能な情報や予測に基づき、予想値を策定いたしましたので、公表することといたしました。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年9月期3Q	14,436,600 株	27年9月期	14,436,600 株
② 期末自己株式数	28年9月期3Q	278,800 株	27年9月期	220,000 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年9月期3Q	14,186,386 株	27年9月期3Q	14,216,600 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間の売上高は3,143,537千円(前年同四半期比9.8%減)、営業損失は5,755千円(前年同四半期は営業利益116,976千円)、経常損失は4,926千円(前年同四半期は経常利益115,372千円)、四半期純損失は25,678千円(前年同四半期は四半期純利益98,863千円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

当事業年度の既存店につきましては、「より分かり易く、より買い易い」をテーマに取り組んでおります。

具体的には商品パッケージの統一化を進め、より分かり易くすることによる茂蔵ブランドの認知度向上と、商品価格が買い易い価格帯である100円商品のアイテム数を増やすため、量目等の見直しを進めました。結果、6月末時点の取扱アイテム数は前事業年度比1.5倍強となり、1店舗平均の顧客数は、第2四半期累計期間の前年同四半期比96.3%から第3四半期会計期間は100.0%と来店頻度の向上に繋がりました。

一方で、買上点数は増加しましたが買上単価が低下したことにより1店舗平均の顧客単価は前年同四半期比96.5%となりました。特にアイテム数が増加した第3四半期会計期間は商品陳列が分かりにくくなったこともあり、買上点数が伸び悩み前年同四半期比94.8%と低下いたしました。これは、ある程度想定しており対応策として3月より路面店舗を中心に、空間を有効活用する多段ケースを導入した改装を順次実施し、分かり易い売り場づくりを推し進め、6月末にはほぼ終了しました。

また、アイテム数を強化したカテゴリーとして、菓子類、パック惣菜、常温品(豆類・お茶類・ふりかけ等)、練り物・珍味は6月末迄に前事業年度比2倍以上のアイテム数となり、売上は前事業年度比を超えることができました。今後は、鮮度感の高い米飯等のカテゴリーにつきましても「100円めし」等を中心にアイテム開発を強化することにより顧客数の増加を推し進めていきます。

また、出店につきましては、3月に既存業態を1店舗出店しましたが、新業態につきましては既存店舗の改装を優先するため当面は見送ることいたしました。一方、販売手法の多様化につきましては、デザイン統一によるブランドの分かり易さから催事依頼が増加し、商業施設等で実施することにより販売データの蓄積を行いました。

売上総利益率につきましては29.0%と前年同四半期比0.9ポイント程度低下しましたが、これは売上減少に伴い物流費率が0.8ポイント上昇したことに加えて100円商品のアイテム数の増加が要因となりました。

営業利益につきましては、店舗改装で18,256千円を費用計上したことに加えて売上が減少したことにより固定費である売上高人件費率1.0ポイント増、同家賃比率0.7ポイント増が主要因となり販管費率が2.6ポイント上昇し営業利益率は3.5ポイント低下しました。

以上の結果、小売事業の売上高は2,803,344千円(前年同四半期比10.6%減)、セグメント利益(営業利益)は77,992千円(前年同四半期比60.4%減)となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は340,192千円(前年同四半期比2.4%減)、セグメント利益(営業利益)は30,176千円(前年同四半期比25.9%減)となりました。

なお、当第3四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位:店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第3四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	59	1	3	57
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	85	16	6	95
合計		144	17	9	152

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して22,041千円減少し1,671,295千円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少52,090千円、敷金及び保証金の減少18,853千円及び商品の増加27,168千円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して44,946千円増加し426,056千円となりました。主な要因は、買掛金の増加34,914千円、未払金の増加9,002千円等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して66,987千円減少し1,245,239千円となりました。これは四半期純損失25,678千円の計上と配当金35,541千円の支払による利益剰余金の減少61,220千円及び自己株式の取得5,767千円によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による影響が大きく、予測が困難なため通期業績予想の開示は行っておりませんでした。現時点における入手可能な情報や予測に基づき、業績予想の開示が可能と判断いたしました。

当第3四半期累計期間の直営既存店における売上高は前年同四半期比で89.4%となりました。第4四半期会計期間の直営既存店の売上高につきましては、3月より実施してきました売り場改装後の直近の実績に基づいて策定いたしました。

営業費用につきましては、当第3四半期累計期間の実績を前提に第4四半期会計期間分を見積もり、利益予想を策定いたしました。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第3四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年9月30日)	当第3四半期会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	470,782	418,692
売掛金	98,428	111,531
商品	41,489	68,658
貯蔵品	1,781	1,352
その他	52,378	48,237
貸倒引当金	△40	△50
流動資産合計	664,820	648,422
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	134,453	123,927
構築物(純額)	11,327	10,110
工具、器具及び備品(純額)	9,587	23,484
土地	562,970	562,970
その他(純額)	1,804	6,240
有形固定資産合計	720,143	726,733
無形固定資産	24,764	20,911
投資その他の資産		
敷金及び保証金	212,363	193,510
その他	71,485	81,945
貸倒引当金	△240	△229
投資その他の資産合計	283,608	275,227
固定資産合計	1,028,516	1,022,872
資産合計	1,693,336	1,671,295
負債の部		
流動負債		
買掛金	230,331	265,246
未払金	69,700	78,702
未払費用	46,986	44,973
未払法人税等	13,381	19,738
債務保証損失引当金	14,550	10,050
その他	5,459	6,244
流動負債合計	380,409	424,956
固定負債	700	1,100
負債合計	381,109	426,056
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	226,908	165,688
自己株式	△35,128	△40,896
株主資本合計	1,312,227	1,245,239
純資産合計	1,312,227	1,245,239
負債純資産合計	1,693,336	1,671,295

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年6月30日)
売上高	3,483,217	3,143,537
売上原価	2,472,857	2,265,042
売上総利益	1,010,359	878,494
販売費及び一般管理費	893,382	884,250
営業利益又は営業損失(△)	116,976	△5,755
営業外収益		
受取利息	150	193
受取保険金	—	445
償却債権取立益	360	240
その他	304	147
営業外収益合計	814	1,026
営業外費用		
租税公課	1,927	—
その他	491	197
営業外費用合計	2,418	197
経常利益又は経常損失(△)	115,372	△4,926
特別利益		
固定資産売却益	242	472
債務保証損失引当金戻入額	3,000	2,250
特別利益合計	3,242	2,722
特別損失		
固定資産除却損	1	—
店舗閉鎖損失	1,015	8,257
特別損失合計	1,017	8,257
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	117,597	△10,462
法人税、住民税及び事業税	25,699	15,216
法人税等調整額	△6,965	—
法人税等合計	18,734	15,216
四半期純利益又は四半期純損失(△)	98,863	△25,678

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成26年10月1日至平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,134,551	348,666	3,483,217	—	3,483,217
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	3,134,551	348,666	3,483,217	—	3,483,217
セグメント利益	196,879	40,749	237,628	△120,651	116,976

(注) 1. セグメント損益の調整額△120,651千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成27年10月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,803,344	340,192	3,143,537	—	3,143,537
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,803,344	340,192	3,143,537	—	3,143,537
セグメント利益	77,992	30,176	108,169	△113,925	△5,755

(注) 1. セグメント損益の調整額△113,925千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損益は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。